

説教余滴、カトリックの結婚式、10月15日

結婚式に出席するため、9月中旬、神田、青山へ行きました。甥が岡山出身の女性と結婚。

式場がカトリック教会。伯父さんが牧師なのに、と思いましたが、これまでほとんど出席したことがないので仕方ないか、と納得させました。後学のため、と言いつけさせる部分もありました。

カトリックの結婚式は、わずかに二回目。前回は、40年以上前、関口台町の東京カテドラル。

今回は、神田にある聖フランシスコ・ザビエル会堂です

カトリック神田教会は1874年(明治7年)1月に創建され東京の教会でも有数の歴史を持つ教会です。場所は、水道橋東出口を出て南へ、日大経済学部を目指します。途中、教団の三崎町教会があります。70年ごろよく来たところです。進めば神保町ですが、1区画先を左へ入ったところに教会堂。

現在の聖堂は、フランス人宣教師シェレル神父の構想により、1928年(昭和3年)に完成したもので、当時の面影がそのまま残っています。マックス・ヒンデル氏の設計によるロマネスク様式とルネッサンス様式を融合させた建築です。2002年2月、文化庁の登録有形文化財に、指定されています。昭和20年3月、5月の東京大空襲では、奇跡的に焼け残りました。

聖堂には、美しいステンドグラスがあり、有名です。正面には三枚、中央にキリスト、右に聖母、左にザビエル、高山右近、細川ガラシャ夫人の姿が描かれています。細川晴美氏制作。

聖堂両側14面には、信仰箇条の一つ一つを色彩とイメージをもって描いてあります。ポーランドの作家マリア・テレサ・レクレフスカ氏の作品です。

ここでの結婚式は、特別なものでした。会衆讃美が一つもなかったのです。関口台町の時は歌いました。カトリックでも司祭による違いがあるようです。ルターが、讃美を会衆の手に取り戻そう、と願った事情が理解できました。